

.....



厳寒の朝市

<http://kuraku.jp>

山はみどり 野に花 人には心

地球のかおり

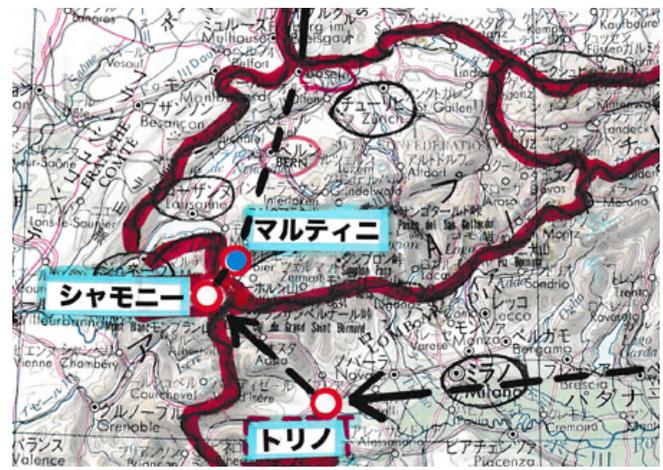
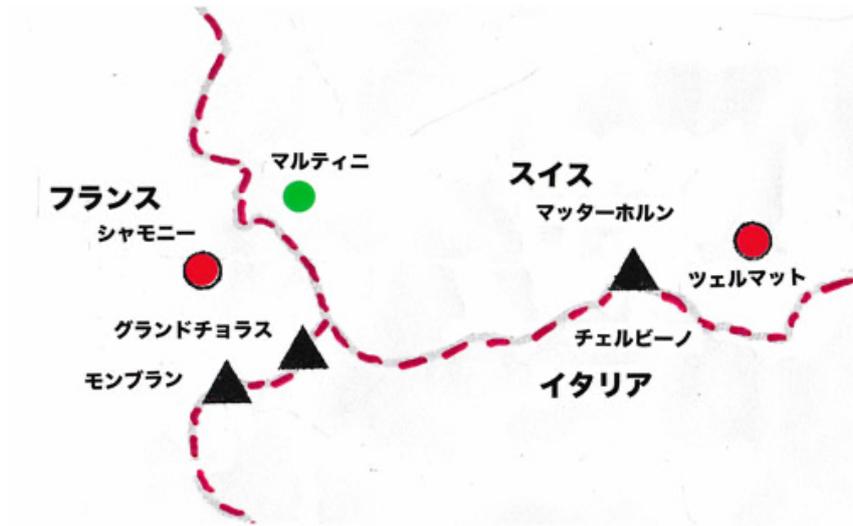
フランス・シャモニーを訪れたのは厳寒の2月だった。モンブランの麓にある田舎町。ここへ来る途中、大雪のため接続の列車が来ず、駅待合室で仲良くなった米国人夫婦が手配した車でやっとたどりついた。雪はベタ雪。道路は凍っている。手の感覚がなくなり、数歩進むたびに手をブラブラさせる私の横を、地元の人たちが平気な顔をして通りすぎる。彼らにはこの光景が日常なのだ。

(夢絵作家 久樂迎古)

厳寒の朝市



下記（心模様）は、最初の下書き



スイス・マルティニからフランス・シャモニーへの移動で、
苦勞した記憶が脳裏に。交通ストップ。
地球ひとり行脚には、想定外の出来事は常に発生する。
その翌朝のさわやかな朝市のひととき、強く印象に残っている。

マルティニ、ケルト時代やその後のローマ時代から
イタリアやフランスを結ぶ交通拠点として栄えた町。
昔、シーザーやナポレオンも通ったグランサンベルナル峠、
夏季のみ、モンブランの麓の村シャモニーへ
鉄道とバスが走っている。所要時間は、約1時間30分。
夏ならば、ブドウ畑が広がる。

私が訪ねたのは、2月の厳寒の時期。
偶然、マルティニの小さな駅に下車したくなった。
フリーパス乗車券の有効利用。
偶然なのか、奇縁の糸に結ばれていたのか、不思議な瞬間。
夕方だった。シャモニー行きの電車が出る。
改札口も何もない。シャモニーの文字に惹かれて、
ともかく、小さな電車で飛び乗った。
2両連結に乗客は7人。

前回、シャモニーを訪ねた時は、ジュネーブ経由、
エギーユ・デュ・ミディ（標高3852m）までロープウェイがあり、
頂上まで行った。富士山3776mより高い。
そこから見えるモンブラン（標高4807m）は鋭角でなく
もの足りない思いの印象があった。
その北側の小さな田舎町、シャモニー・モンブラン、言葉の響きがいい。
周りは壁のような山々に囲まれている。
今一度、行ってみたいという思いが潜在意識にあった。

この旅の出発は、厳寒の2月、この年は豪雪だった。
パリ・シャルルドゴール空港から、レマン湖のあるジュネーブへ。
ローザンヌ、バーン、チューリッヒ、サンモリッツ、
そして、マッターホルンのヴァリス地方へ、
ジュネーブの街へ戻り、パリにも立ち寄りたと思っていた。
今回は列車の旅。1等のスイスパスを入手。
スイス全土と、越境しても一定の距離内だとスイスパスが使える。
夏季のみの案内を見ていたらご縁がなかったかも知れない。

以前訪ねた体験では、贅沢を言わないと
宿の確保はやさしいと判断、ともかく、飛び乗った。
その際、曜日の意識はなかった。土曜日。
地図上では距離も短い。そんなに時間はかからないだろう。
スイス・マルティニも小雪が降っていた。

シャモニーの街は、標高 1037m。
急坂を走るのは登山電車。山間をぬって蛇行しながら、
峡谷の間を、そして、いくつものトンネルを通る。
景観が変わる。窓の外は断崖絶壁。
雪が激しく降ってきた。

レールだけでは上れない急坂。スリップしないように
車両と線路の構造が変わる。歯車のよう？
ギ、ギ、ギという音やギクシャクの振動や横ゆれ。
この峠越えの登山電車は、かなり老朽化？
積雪は半端でない。上に行くほど、雪も強く降り出した。
スピードダウン。大丈夫だろうか。
ますます、雪が激しく降り出し暗くなってきた。
そして、スイス側の国境の駅に到着した。

日暮れが早い。暗くなってきた。全くの闇ではない。雪あかり。
そして、問題が発生。フランス側の接続の
シャモニー行きの電車が来ない。

国境駅で7人の乗客が立ち往生した。
待合室で待たされた。時間が経過、1時間、2時間、・・・
眼前では、いろいろ会話がなされている。
フランス語やイタリア語、ドイツ語？ 携帯電話をかけている人も。
それぞれが情報交換。どこに行くかなど話合われた。
中国人もいた。コックとのこと。
どうしても、シャモニーのレストランに行かなければならない。
アメリカ人のご夫妻もいた。予約している。
この時、英語が通じるのが有難かった。

国境駅のプラットホームは、凍って、風のせいだろうか、
雪でいっぱい。線路は勿論、見えない。
ラッセル車がある部分だけ少し見えたが、すぐに、雪に覆われた。
スイス側にも戻れない。この日の最終列車になった。

フランス側の登山電車が、いつ来るのか。来られないとか、情報が錯綜^{さくそう}。

国境駅だが、小さな宿があるとか、休業とか。
私は最悪を覚悟して、宿を探す事も選択肢の一つと。
何人かが同行、宿を探す寸前まで行った。
時間は3～4時間経過している。

運転停止。フランス側からの登山電車が来られないとの結論。
地元の人もある。
先ほどの中国人も、どうしても仕事に行かないとならない。
アメリカ人ご夫妻も、予約と予定があるとのこと。
今、車の手配をしているとの事。
しかし、道路の積雪も激しくなる雪のため、普通の車では難しい。
深雪対応の特別車？ なんとか、峠越えを出来るというプロの判断だったが、
その予想を超えた積雪と豪雪だったようだ。

すったもんだの末、2代の車の手配が出来たとの事。
長時間、待っている間、会話が進んだ。
地球ひとり行脚・一人旅しているアーティストと自己紹介。
ポストカードもプレゼント。
アメリカ人ご夫妻は、ニューヨークで、コンピューター会社を経営。
会話がはずみ、共通点が出てきて、親交が深まった。
それぞれの行き先を話し合った。
私も同行できるように、話を進めてもらったようである。
袖すり合うも他生の縁。国籍を超えて、心使いや配慮が有難かった。
2台の車がやって来た。一安心。

しかし、シャモニーの宿の予約はしていない。
時間も遅い。観光案内所もクローズしているだろう。
時計を見ると、午後9時を過ぎている。
シャモニーの町は、温かそうな灯りで満ちあふれていた。
その光を見た時の嬉しさ。

一難去ってまた一難。宿の問題がある。
この際、宿泊料は問題でない。とにかく、宿を確保するのが優先。
アメリカ人ご夫妻が親切だった。
定宿にされている高級ホテルまでご一緒した。
しかし、空室がなかった。
フロントマンも親切で、方々に電話をかけ、やっと確保。

確保したホテルに行くには、歩いて行ける距離ではなかった。
車も難しい立地。道路は凍っている。
シャモニーの雪は、べた雪だった。トランクを押すなどできない。
背中にリック。トランクにカメラ類のバッグ。
訓練していてよかったが、寒さと言ったら半端でない。
雪は小降りになったが寒い。数歩、歩くごとに手をブラブラ。体力の限界。
やっとのことで宿に到着。
一息つく間もなく、お腹がグーとなった。

レストランは、遅くまで営業している。
この時、無性に日本食が食べたくなった。
さすが、シャモニー。モンブランの町である。
お寿司屋さんがあり飛び込んだ。
この時のお寿司と冷たいビールの美味しさは忘れられない。
こんな瞬間があるから、地球一人旅がやめられない。
宿に戻り、ベッドにバターン。

その翌朝の早朝、雪は小降りになっていた。
モンブランの見られるエギュードミディにも行きたい。
ロープウェイは、豪雪で運転停止。翌日も停止。
3泊した。しかし、しばらく、見通しが立たないらしい。
雪の中を町中、歩き回った。
べた雪で、冷たさは半端でない。カメラ2台が通電しなくなった。
デジタルではない。金属ボディのカメラ。

そして、出会った朝市の光景。
住人の人たちは、見慣れた光景なのだろうが、
私には、訪ねた経緯もあり、実に新鮮に心に刻み付けられている。
もし、峠越えしていなかったら見られなかった光景。

たかが一枚の光景だが、上記のような様々な思いが浮かぶ。
4大陸、危機脱出体験や試練克服、命拾い、
いろいろ体験させてもらった。
「冷暖自知」実体験、手で触れないと、
熱いか冷たいかわからないものが、世の中には、多くある。

良き思い出は心の財産。
心身健康と訓練を重ねてきていたおかげ。
まだまだ、話は続くが、この辺で。

